

位の考え方、自己中心的な考え方なのではないでしょうか？

しかも、この負担はすべて、私たちではなく、それを利用する障害者にかかってくる。これはあまりにもおかしい話だと思えます。普段の生活にも不自由を感じているにもかかわらず、障害者を助ける道具や手段を私たち健康者が邪魔をしている…。知らないうちに障害者を追い込んでしまっているのです。

国・県・市がどんなに障害者のために様々な施設・設備を造っていても、そこに住む人々が知らん顔していると、何も意味がありません。他人は関係ないではなく、すべての人たちが助け合うことが大切だと思います。

たとえ、その成果が目に見えないとしても、自分でできる小さなことから始めて、お互いに協力してみてはいかがでしょうか。知らないうちに、どこかで誰かが『ありがとう』と言っているかもしれません。

感想②

私が市内を調査して特に印象に残っているのは、大町商店街です。大町商店街の歩道を、車いすに乗って調査していると、自転車の乗ったおじさんに、邪魔にさ

れました。道幅が狭かったこともありましたが、「そっちがよける」みたいな態度をされてとてもショックだったと共に、悲しい気持ちになりました。やはり、まだ車いす利用者への理解が足りないんだなあと感じました。

施設やいろんな設備のバリアフリーは、段差を無くしたり、通路幅を広くしたりとお金をかけることで工夫できます。しかし、心のバリアフリーは、私たち一人ひとりの思いやりや優しさがなければ実現できません。この取材を通して心のバリアフリーが大切だと感じました。

おわりに

高齢化社会を迎え、障害者だけでなく、誰もが皆暮らしやすい、利用しやすい街づくりが求められていると思います。

そのため施設や環境の整備など、ハード面では着実にバリアフリー化は進んでいると思います。しかし、私たちの心の中、つまり、障害者や高齢者への理解と協力、いわゆるソフト面でのバリアフリーは、まだまだ遅れていると感じました。

折しも、季節は冬。雪が降り積もって除雪・排雪に皆さん大

変なご苦労をされていると思えます。そのとき、ちょっと周りを見渡してみてください。障害者や高齢者の家で、困っているような所はありませんか。玄関までの雪を寄せるとか、排雪を手伝うとか、無理のない範囲でちょっとしたボランティアをしてみてもいいでしょうか。私たち一人ひとりの思いやりが、大館の街を変えていくのだと考えます。

最後になりましたが、取材へご協力いただきました皆さんに対し、心からお礼申し上げます。

知っていましたか？ こんな条例

(秋田県バリアフリー社会の形成に関する条例)

・第5条には県民の義務としてこんなふう定められています。

1、県民は、バリアフリー社会の形成に自ら積極的に取り組むとともに、県が実施するバリアフリー社会の形成に関する施策に協力するものとする。

2、県民は、高齢者、障害者等のために整備された施設等、物品又はサービスの高齢者、

障害者等による利用を妨げないようにならなければならない。私たちはバリアフリー社会形成のために造った物(身体障害者のための駐車場、目の不自由なための点字ブロックなど)の使用を妨げてはいけないのです。守らなかつたら罰せられることはありませんが、人として、秋田県民として守っていかねばならないのです。

